

第17回住宅系研究報告会

＜主催＞建築社会システム委員会・建築計画委員会・都市計画委員会・農村計画委員会

住宅・住宅系まちづくりのテーマは、建築計画・建築社会システム・都市計画・農村計画などで取り上げられ、大会では毎年多くの論文が発表されています。昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を続けるため、第17回目の住宅系研究報告会を開催します。

報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを意図しています。

また、第一日目にパネルディスカッションを開催し、総合的な議論の機会を設けます。

期 日:2022年12月9日(金)・10日(土)

会 場:オンライン開催(Zoom)

参加費:会員 2,500 円、会員外 3,500 円、学生(会員・会員外) 1,000 円
資料別売 会 員:3,000 円(送料無料)

会員外:3,000+700 円(700 円は送料)

※なお、資料は報告会終了後、建築書店で購入できます。

定 員:85 名(申込先着順)

申込方法:オンライン開催のため、Web による要事前申込

申込締切:12月1日(木)

◆申込ページ

<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=668169>

支払方法:クレジットカード決済のみ

※領収書は「クレジットの振り込み明細」とさせていただきます。

領収書が必要な場合は、「お申し込み受付完了通知メール」を印刷のうえ、「領収書希望」と明記し、返信用封筒(84 円切手貼付、宛名記入)と併せて下記の送付先までお送りください。折り返し 12 月 9 日以降に領収書をお送りします。宛名は勤務先名とさせていただきますが、ほかに宛名の指定がある場合は、その旨あわせて明記してください。

【送付先】〒108-8414 東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号
日本建築学会「第 17 回住宅系研究報告会」係

アクセス方法:申込締切後、開催前日までにメールでお知らせします。

Zoom を最新バージョンに更新してご参加ください。

建築 CPD:12 月 9 日【7 単位】、12 月 10 日【5 単位】

問合せ:住宅系研究報告会 jyutakuai@aij.or.jp

住宅系研究報告会 HP:<http://news-sv.aij.or.jp/jyutakuai/>

オンライン参加される方への注意事項

- (1)お申し込み後の返金は一切いたしかねますのであらかじめご了承ください。受信側の PC・タブレットの障害やインターネット回線の障害により接続不良が生じた場合でも、返金はいたしませんのでご了承ください。
- (2)Zoom 公式サイトでテスト接続が可能です。お申し込み前に必ずテストをしてください。
◆Zoom 接続テストページ <https://zoom.us/test>
- (3)接続に関してご不明なことは Zoom ヘルプセンター等でご確認ください。接続方法についてのご相談はお受けいたしかねます。
◆Zoom ヘルプセンター <https://support.zoom.us/hc/ja>
- (4)個人単位でお申し込み下さい。1 人のお申し込みにより複数人で視聴したり、参加用 URL をシェアしたりすることは固くお断りいたします。
- (5)開催 30 分前から入室を可能にしますので、当日は早めに接続して音声・映像等がきちんと流れるか確認されることを推奨します。
- (6)スクリーンショットや録音・録画はご遠慮ください。

パネルディスカッション(12月9日(金)15:20~17:20)

「地域の不動産が担うヒトつなぎマチつなぎ—空き家問題・住環境のマネジメントを考える—」

近年、空き家問題が社会で注目されてきた中で、不動産業界では、建築ストックを地域の多様なニーズと結びつけ、新たな利用につなげる担い手が登場してきた。彼らは、これまで不動産業界では等閑にされてきた建物に、DIY 賃貸、福祉転用、地域交流拠点への再生、サブリースを通じた賃貸化など、様々な手法を駆使して、新たな「場」のあり方を提案し、これを実現している。まちの不動産屋さん、大家さんとして、利用者との見える関係を築き、またこの「場」を媒介して人々新たな交流が生み出されている点は大きな特徴である。一方、彼らは決して慈善事業ではなく、ビジネスの一環として事業を展開している点にも留意されたい。行政組織や NPO 法人のように「まちづくり」や「空き家問題」に対する使命を強く自覚している訳ではない。地域のニーズやお困りごとに、収益事業として手の届く範囲で応え、結果として、人々が地域に住まい、空き家が継承されていく。ヒトをつなぎ、マチを次世代へつなぐ地域の不動産の担い手は、これからの地域コミュニティの持続的な運営において、大きな役割を持つのではないだろうか。

本パネルディスカッションでは、このように地域に根付いて活躍する不動産の新たな担い手として株式会社アンディート・安藤勝信氏、株式会社みらい不動産・関達彦氏をお迎えし、事業内容や今後の展望についてご講演いただく。また、後半はゲストコメンテーターとして、齊藤広子教授をお迎えし、住環境マネジメントやストック型社会に向けた不動産への期待や課題について議論を行う。

パネラー: 安藤勝信(株式会社アンディート)

関達彦(株式会社みらい不動産)

コメンテーター: 齊藤広子(横浜国立大学)

趣旨説明: 梅本舞子(筑波技術大学)

司会: 渡邊史郎(建築研究所)

企画・コーディネイト: 建築社会システム

(パネルディスカッション:手話通訳付き)

＜プログラム＞

(発表時間 10 分・質疑応答 5 分、コメンテーターによる講評 15 分、〇印は発表者)

1 日目 12月9日(金)

開会の挨拶(9:30~9:40) 内海康也(国土技術政策総合研究所)

セッション1 居住地の持続と更新(9:40~11:10)

司会: 山口秀文(神戸大学)、副司会: 陳誠(神戸大学)

コメンテーター: 岡絵理子(関西大学)

1. (報告区分3) 人口減少時代の大都市郊外住宅地の変化—東京都八王子市を対象として—

○饗庭伸(東京都立大学)、西原まり

2. (報告区分1) 地方都市の住宅団地における定期借地権付き住宅の現状—石川県 A 団地を事例として—

○菊地吉信(福井大学)、井出華樹

3. (報告区分1) 戸建て住宅における外部からの視線によるプライバシー感に関する研究—鳥取市地区計画区域の事例—

○浅井秀子(鳥取大学)、熊谷昌彦、野津紫文

4. (報告区分3) 歴史的細街路沿いの建物更新を可能にする「一建築物戸別更新手法」の検討
○三森弘(名古屋大学)
5. (報告区分1) 団地再生事業により更新された住宅街区の評価手法に関する研究－香里団地における団地再生事業を事例として－
○土井睦浩(都市再生機構)、井上えり子

セッション2 集合住宅の住みこなしと再生(11:20～12:50)

司会: 小山雄資(鹿児島大学)、副司会: 後藤智香子(東京大学)
コメンテーター: 長谷川洋(国土技術政策総合研究所)

6. (報告区分1) 公営住宅のバルコニーにおける花台の利用に関する研究－大阪市営住宅を事例として－
○何景美(千葉大学大学院)、亀谷義浩、松浦健治郎
7. (報告区分1) ストック活用型団地再生の事業創発のプロセスと要因に関する研究－大阪府住宅供給公社茶山台団地の再生事業を事例として－
○中川健太(大阪大学)、伊丹絵美子
8. (報告区分1) 大都市郊外団地におけるリノベーション住戸居住者のライフスタイル
○井上えり子(京都女子大学)
9. (報告区分1) 可変性を有した集合住宅の居住履歴、改修履歴調査を通じた居住環境の経年変化に関する研究
○南一誠(芝浦工業大学)
10. (報告区分1) 分譲マンション管理不全の実態と健全化に向けた課題－大阪府の高経年マンションを一例として－
○藤本佳子(マンション管理研究所)、河野学

セッション3 空き家の活用(13:40～15:10)

司会: 宮原真美子(佐賀大学)、副司会: 前田昌弘(京都大学)
コメンテーター: 藤岡泰寛(横浜国立大学)

11. (報告区分1) 分散型ホテルの事業成立に係わる特性と地域に期待される効果
○高井宏之(名城大学)
12. (報告区分1) 地域文化を基盤とする再生民泊による地域再生・賦活に関する研究－南砺市井波地区・邑南町日貫地区・小浜市丹後街道地区を対象として－
○李奎告(大阪市立大学)、徳尾野徹、西野雄一郎
13. (報告区分2) 空き家活用による地域の居場所づくりのプロセスに関する研究－世田谷区空き家等地域貢献活用事業を対象として－
○高井隆司(千葉大学)、松浦健治郎
14. (報告区分2) 島根県出雲市鳥巣地区における空き家を活用した学生シェアハウス整備の取組
○井上翔太(島根県庁)、内藤隆、三島幸子、細田智久
15. (報告区分1) 個人所有重文民家の修理および維持管理費用の実態と課題－重文民家の所有者を対象とした調査から－
○碓田智子(大阪教育大学)、中尾七重、大野敏、栗本康代

2日目 12月10日(土)

セッション4 地域資源の発掘と活用(10:00～11:15)

司会: 益尾孝祐(愛知工業大学)、副司会: 津田綾子(東京都市大学)
コメンテーター: 松浦健治郎(千葉大学)

16. (報告区分2) 横浜市郊外住宅地における愛着・思い出のある場所に関する考察－地域資源の発掘と発信に関する実践的取組を対象として－
○上野正也(神奈川大学)、山家京子、松本安生
17. (報告区分1) 歴史的環境資源の活用に着目した多主体協働のまちづくりと地元市民組織に関する研究－兵庫県神戸市・兵庫津エリアを対象として－
○陳鍼(神戸大学)、山口秀文、山崎寿一
18. (報告区分1) コロナ禍以降の個人の生活スタイルの変化に対応した、公共空間活用と民間組織によるネットワークの構築に関する研究－岐阜県中津川・恵那地域の出店イベントを対象として－
○三好沙季(東京工業大学)、松家雅大、真野洋介
19. (報告区分2) 役割を横断する個人同士が構築するチーム体制の実態と展開可能性－富山県高岡市のサカサカリノベーションプロジェクトを対象として－
○中田海央(東京工業大学)、山本響、加納亮介、真野洋介

セッション5 被災地の記憶と復興(11:25～12:40)

司会: 平田隆之(和歌山大学)、副司会: 友淵貴之(宮城大学)
コメンテーター: 三笠友洋(西日本工業大学)

20. (報告区分1) 被災地の復興過程における地域の心的空間秩序の変容に関する研究－岩手県大槌町におけるワークショップとヒアリング調査結果の分析を通じて－
○大西健太(神戸大学)、安治徹、磯村和樹、槻橋修
21. (報告区分1) 被災地における地域の記憶の構成と場所性の変化に関する研究－気仙沼市大沢地区でのワークショップにおいて収集された記憶の分析を通じて－
○田島広大(神戸大学)、磯村和樹、友淵貴之、槻橋修
22. (報告区分2) 防災集団移転促進事業による住環境形成に関する住民・専門家協働による実践プロセスに関する研究－気仙沼市唐桑町大沢地区を事例として－
○友淵貴之(宮城大学)、磯村和樹、槻橋修
23. (報告区分1) 防災集団移転後の復興コミュニティの居住環境についての現状と課題－大船渡市越喜来泊地区並びに石巻市十三浜相川地区・小指地区を比較して－
○越光蓮(総合資格学院)、杉本茅夏、後藤純

セッション6 高齢者と住環境(13:40～14:55)

司会: 深井祐紘(明星大学)、副司会: 前田昌弘(京都大学)
コメンテーター: 関川華(近畿大学)

24. (報告区分1) 倉敷市真備町の仮設住宅における入居実態と高齢者が直面する諸問題－復興後期の仮設住宅における支援のあり方に関する考察－
○中島美登子(香川大学)
25. (報告区分1) 高齢者グループリビングの居住者が考える認知症発症時における居住限界と相互扶助の実態
○宮野順子(武庫川女子大学)
26. (報告区分1) サービス付き高齢者向け住宅におけるサービス実態把握と課題－職員に対するアンケート調査と建築特性に基づく分析－
○山田義文(日本大学)、王健嬌
27. (報告区分1) 高齢者が居住する住宅の多職種連携による改修の工程と効果
○新谷彩(神戸大学)、近藤民代

セッション7 住居の設計・計画思想(15:05～16:20)

司会: 友淵貴之(宮城大学)、副司会: 三笠友洋(西日本工業大学)
コメンテーター: 平田隆之(和歌山大学)

28. (報告区分2) 伝統的京町家の潜在的な持続可能性を顕在化させる設計手法の試み
○中江哲(武庫川女子大学)
29. (報告区分1) 伊丹潤の言説における住宅に関する思想－朝鮮の集落・民家に関する思想から現代の住宅に関する思想まで－
○後藤沙羅(神戸大学)、末包伸吾、増岡亮
30. (報告区分1) 同潤会普通住宅の住宅型式に関する研究
○伊達一穂(東京大学)、大月敏雄、志岐祐一、堀内啓佑
31. (報告区分1) 昭和三陸津波における宮城県十五浜村雄勝の住宅復興－「理想的漁村」としての集落計画・住宅の実態と特徴－
○阿部瞳子(東海大学)、小沢朝江

閉会の挨拶(16:20～16:30)

小山雄資(鹿児島大学)